

日本アジア言語文化専攻

Japanese and Asian Languages and Cultures



当専攻には、「日本語」「日本文化」「アジア言語文化」の3領域があります。

「日本語」では、近現代の日本語を中心とした対象として、日本語研究を行います。また、日本語と外国語との関わりも重視しています。「日本文化」では、日本の伝統文化や近現代文化・社会を対象とした研究を行います。「アジア言語文化」では、中央ユーラシアから東南アジア大陸部までの言語、文献及びそれらの文化的背景について研究します。

The Japanese and Asian Languages and Cultures Program consists of Japanese Language, Japanese Culture, and Asian Languages and Culture units. In the Japanese Language unit, students conduct research on the Japanese language focusing mainly on modern and contemporary Japanese. The relationships between Japanese and foreign languages are also emphasized.

In the Japanese Culture unit, students conduct research on traditional Japanese culture, and culture and society of modern and contemporary Japan. In the Asian Languages and Culture unit, students engage in research on the languages, literatures and cultures that span from Central Eurasia to the southeastern Asian continent.

授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles

日本語 Japanese Language

福田 嘉一郎 (ふくだ よいちろう) Yoshiichiro FUKUDA
●教授/Professor

日本語の文法の研究を行っている。特に近代語という観点に基づき、中世から現代に至る日本語を主な研究の対象としている。
Studies in Japanese grammar (syntax, morphology)

中井 幸比古 (なかい ゆきひこ) Yukihiko NAKAI
●教授/Professor

日本語の音声・音韻に関する研究、また、方言・社会言語学研究を行っている。日本語学習者の音声・音韻にも興味を持つ。
Japanese Linguistics (Phonetics, Phonology, Dialectology, Sociolinguistics)

岩男 考哲 (いわお たかのり) Takanori IWAO
●准教授/Associate Professor

現代日本語の文法を主に研究している。特に、話し言葉に見られる形式の意味、そしてその意味の多様性(とその多様な意味の間のつながり)に関心がある。最近では、会話において話題を導入する形式や引用表現を主な研究対象としている。
Studies in modern Japanese grammar (syntax, semantics)



修士課程 日本アジア言語文化専攻

Master's Program / Japanese and Asian Languages and Cultures

日本文化 Japanese Culture

馬淵 美帆 (まぶち みほ) Miho MABUCHI
●教授/Professor

日本絵画史。特に中世から近世のそれを主な対象として研究している。
History of Japanese Paintings (medieval and early modern times)

山本 昭宏 (やまもと あきひろ) Akihiro YAMAMOTO
●准教授/Associate Professor

メディア文化史、歴史社会学研究。核エネルギーに関する日本人の認識を、新聞・雑誌・漫画・映画・小説などの様々なメディアに注目して研究している。それに基づいて、日本の現代文化との比較研究も行っている。
History of media culture. Historical Sociology

アジア言語文化 Asian Languages and Cultures

林 範彦 (はやし のりひこ) Norihiko HAYASHI
●教授/Professor

言語学専攻。専門領域は東アジア・東南アジア大陸部の諸言語である。中国雲南省で話されるチベット・ビルマ系言語であるチノ語の記述言語学的研究を中心に、東南アジア大陸部北部地域(タイ文化圏)の諸言語の地域言語学的研究を行っている。フィールドワークを手法とする記述言語学・言語類型論・歴史言語学(比較言語学・言語接触論)からこれらの諸言語にアプローチしている。また記述言語学と言語理論(生成文法・認知言語学等)の有機的な連携にも強い関心がある。
Tibeto-Burman Linguistics and Southeast Asian Languages



最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- ・日本人学生と留学生の関西弁のイメージについての比較研究
- ・格助詞「に」「で」の誤用分析とこれからの指導法について
—中国語を母語とする日本語学習者を中心に—
- ・「(名詞)の(漢語動名詞)」句における「の」の脱落現象に関する一考察
—(名詞)が(漢語動名詞)の項である用例を中心に—
- ・日本語学習者における外来語の受容意識
- ・日本語のテイタとそれに対応する中国語表現について
- ・今井正作品における「戦後民主主義」の諸相 —国策映画から独立プロ作品まで—
- ・漢語福建省仙遊方言の音韻に関する研究
- ・ベトナム語の「đ ã」の機能に関する一考察
- ・ベトナム語ファンティエツ市方言における呼称法 —家族内の呼称法を中心に—

なぜ修士課程に進学しようと思いましたか。

以前から日本語に対して非常に興味を持っていました。大学のプログラムを通じ、日本へ来て日本語を勉強しました。勉強すればするほど日本語はもっと興味深いものになってきました。日本語の音声音韻に特に関心を持つようになり、中国人日本語学習者の発音を研究したいと思い、修士課程へ進学することを準備しました。

神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。

中国人日本語学習者の音声教育について研究したいと思うようになり、より専門的な日本語音声音韻の知識を学びたかったので、修士課程へ進学する前に、1年間研究生として中井先生の元で勉強しました。自分が行いたい研究と近い分野を研究されている中井先生から多くの指導意見をいただけるため、修士課程も本学を受験することを選び

ました。また、神戸市外大の学習雰囲気や良く、図書館には専門的な本や資料文献などが沢山あり、充実な研究環境だと思います。

入学する前と後で大学院に対するイメージはどのように変わりましたか。

私は修士課程へ進学する前に1年間研究生として、言語基礎知識を勉強しながら修士入学試験の準備をすることにしました。修士課程へ入学すると、研究を進めるため多くの本や文献資料を読まないといけないので、授業は自分には難しいのではと思ったからです。修士課程入学後は、研究生の時よりも授業中の発表などが多く、結構忙しいと思いますが、授業中に自分の研究を皆さんと一緒に検討することができ、非常に良い意見をいただけたりと、また、先生はいつも優しく熱心に指導してくださるのでとても有り難く思っています。

院生紹介

Message from a Student



王文娟(2年)
WANG Wenxian